

● 評価書素案

都市再生緊急整備地域名 大阪コスモスクエア駅周辺地域

	上位計画、関連計画の位置づけ	都市再生に係る事業等	都市再生の効果の発現	特記事項
記載事項	<p>【大阪都市計画区域マスタープラン】(令和2年改訂)</p> <p>○市街地開発事業に関する方針 <都市拠点の形成など広域的なにぎわいづくり> ・都市再生緊急整備地域の整備 ・臨海部におけるまちづくりの推進(夢洲・咲洲エリア)</p> <p>○都市再生に関する方針 <都市再生緊急整備地域のまちづくり> (大阪コスモスクエア駅周辺地域)</p> <p>既存の先端技術開発や国際交易、情報通信機能の集積を活かし、大学・研究機関の誘致、研究開発型企業等の立地促進を図り、「産学連携を可能とする研究開発拠点の形成」をめざします。また、生活利便機能の導入を含め「魅力ある市街地の形成」をめざすとともに、臨海部の特性を活かした「親水空間や賑わい空間の形成」を促進します。</p> <p>○都市景観に関する方針 市域全域での心地よい市街地景観の形成、地域の特性を活かした景観の形成、市民や事業者との協働による景観の形成を推進します。</p> <p>○都市防災に関する方針 大規模自身に備え、地域における自助・共助の応急体制を整えるため、地域住民等への防災啓発の強化や地域の防災まちづくりへの支援を行うなど、「地域防災力の向上」を促進します。</p> <p>○都市環境に関する方針 ・太陽光発電等の再生可能エネルギーを有効活用するほか、ごみ処理や下水処理に伴って発生する未利用エネルギーなどの活用を図ります。 ・街区レベルで再生可能エネルギー・未利用エネルギーの活用や高効率なエネルギー利用、エネルギーの最適利用等に取り組めます。特に「夢洲・咲洲地区」については、低炭素型都市に向けたモデルエリアと位置付け、自立分散型電源の導入と建物間を繋ぐネットワーク化によるエネルギーの面的利用を促進するなど、地域の特性を活かした低炭素型のまちづくりに取り組めます。</p> <p>【ランドデザイン・大阪】(平成24年策定)</p> <p>○夢洲・咲洲エリア ・海の玄関口として、新エネ産業、国際観光エンターテインメントの誘致に活かす</p>	<p>民間により大学や研究開発施設、国際観光の支援施設などが複数整備され完成している。</p> <p>今後、コスモスクエア駅やトレードセンター前駅周辺において、民間による研究開発施設の開業が予定されているとともに、業務、商業、ホテル、居住などの複数の都市開発事業が、検討・調整中である。</p> <p>公共施設整備としては、情報板等の整備が完了し、現在、都市開発事業に合わせてペDESTリアンデッキを整備しており、令和4年度には、計画している2ルートのうち1ルートが完成予定である。また、令和7年には北港テクノポート線の敷設が完了予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口 382人(H17)→3,915人(R3) 世帯数 19世帯(H17)→1,732世帯(R3) 地価(近隣の地価公示点) 10.0万円/㎡(H28)→10.2万円/㎡(R3) :約9%上昇(区平均:約11%上昇) 学生数(地域内) 約700人(H21)→約1,800人(R3) 観光客入込数(地域内) H20～R1に3施設(総客室数765室)が開業 従業者密度(特定地域内) 81人/ha(H13) →201人/ha(R3) 事業所密度(特定地域内) 2事業所/ha(H13)→2事業所/ha(R3) 単位面積当たりGRP(特定地域内) 729百万円/ha(H13)→1,749百万円/ha(R3) 来場者数(アジア太平洋トレードセンター) 約650万人(H22)→約700万人(H30) 国際見本市会場の入場者数(インテックス大阪) 261万人(H23)→266万人(R1) 国際見本市会場の開催件数(インテックス大阪) 158件(H23)→215件(R1) 	

項目別評価	「大阪都市計画区域マスタープラン」において、都市再生緊急整備地域の整備が位置づけられている。「ランドデザイン・大阪」において、夢洲・咲洲エリアとして位置づけられている。	都市開発事業や公共施設整備事業が進捗している。今後も、都市開発事業が予定されている。	人口、世帯数、単位面積当たりGRP、国際見本市会場での開催件数等において、都市再生の効果の発現が認められる。	
-------	--	--	--	--

総合評価	都市整備事業・公共施設整備事業が進捗し、整備の目標の実現が図られつつある。今後も、予定されている都市開発事業について引き続き推進する必要がある。	⇒	地域指定を継続	
------	--	---	---------	--